

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 大牟田市立天領小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒836-0054

福岡県大牟田市天領町1丁目145番地1

E-mail tenryo-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website <http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/tenryo-es/>

幼児児童生徒数 男子191名 女子219名 合計411名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校では、学校教育目標「共に未来を築く、心豊かで、かしこくたくましい子どもの育成」の実現に向け、大きく二つの柱を立て、ESDを推進している。

一つは、体育科を中心に、人々・社会とかかわる課題解決的な活動を重視し、「オリンピック・パラリンピック」を通したESDを展開している。

さらに、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの支援を受け、「天領小学校・みなと小学校・天の原小学校の3校が連携した海洋教育」を通したESDを展開している。

具体的には、①パラリンピアンとの交流学習、②海洋教育「海に親しむ」に関わる学習、③海洋教育「海を守る」に関わる学習、④海洋教育「海を利用する」に関わる学習を行った。

### ① パラリンピアンとの交流学習

ロンドンパラリンピックのゴールボール競技、金メダリストの浦田理恵選手を招聘し、ゴールボール体験を通して、チームスポーツの意義や価値、努力することの大切さ、パラリンピック選手のプレーのすごさを学ぶ学習を行った。これに関連して、3学年道徳において、高橋尚子選手を題材として取り上げ、他人と比較するのではなく自分の頑張りに目を向けると、自分自身の

力や前向きに頑張りに続けることのよさを学び、深く自らのこととしてとらえることができた。

## ② 海洋教育「海に親しむ」に関わる学習

「宝の海・有明海」は世界有数の干潟を擁しており、そこに生息する生物は実に多様なものである。そこで、ネイチャーガイドから有明海の特徴や生物についてのガイダンスを受け、干潟に入り、海の生物を採集・観察する干潟観察会を実施した。その後、地域の方々や協力校の児童を招き「天領・海祭り」を開催した。ここでは、干潟の生き物とその暮らしを劇や歌で表現するなど、有明海の生きものを中心に教科横断的に学ぶ学習活動がダイナミックに展開できたと考える。

## ③ 海洋教育「海を守る」に関わる学習

「守る」ためには「大切に思う」ことが必要になる。そこで、校区を流れながらも、なじみの薄い諏訪川でカヌー体験や水源から汽水域の三池港までフィールドワークを行い、水質検査を実施した。そして、環境に詳しいゲストティチャーの助言や水質検査の結果から諏訪川の環境をとらえ、ポスターやリーフレットをもとに有明海を守る活動へ広げた。

## ④ 海洋教育「海を利用する」に関わる学習

「100年先の大牟田の未来を考える」学習活動を展開した。国土交通省九州地方整備局出前授業や三池港クルーズ学習を通して、海上から現在も稼働する世界文化遺産の三池港や周辺の地形を見学した。その後、現在の大牟田市の事業計画や、全国の海洋の利用状況を調べ、100年先の大牟田市の海を利用した町おこしを考えた。そして、協力校とのテレビ会議や九州地区5校海洋教育パイオニアスクールの子どもフォーラム等の交流を通して、学びを深めることができた。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 学校行事 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

書籍…「海のおさかな大百科 1～6」「さがして海はかせ 1～3」「海辺の生物」「干潟生物観察図鑑」等  
佐賀県庁HP、柳川市HP、八女市伝統工芸館HP、マリンワールドHP  
駛馬地区公民館「諏訪川の生物」、荒尾市「干潟の生物」等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育指導計画に、オリンピック・パラリンピックや海洋教育の指導計画やESDカレンダーを提示し、各学年がどの時期にどの程度の時間でどのような教科と関連させていけば効果的な展開ができるかを示した。

特に海洋教育では、3学年から系統立てて学習活動を仕組んだ。また、総合的な時間の学習を要として、各学年とも図工や国語、社会、理科の各教科と関連してストーリーマップを作成した。さらに、協力校との干潟観察や有明海クルージング、TV会議など、合同で活動する場を設けた。それを、「3校合同海洋教育年間計画」に示し、各学年の活動が一覧で見通せるようにした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌にESD担当を位置づけ外部折衝の基点とするとともに、総合的な学習の時間の担当と連携し、年間指導計画を改善するようにしている。また、ESDを校内研究に位置づけ、オリンピック・パラリンピック部会、海洋教育部会を活動の母体としている。その校内研究では、年間を通して、教師がオリ・パラ教育や海洋教育を素材とした横断的な見方や考え方をもち、多様な教科・領域において授業のあり方を改善していけるように構想している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ESDを校内研究に位置づけ、オリンピック・パラリンピック部会、海洋教育部会で授業研究会を通して実践・評価をしている。講師招聘の授業研究会において、その成果と課題を協議することにより、改善の方向を明らかにしている。また、海洋教育においては、研究協力校とのTV会議や海洋教育子どもフォーラムなどに外部講師を招き、その活動の評価を受けることで、子どもも教師も活動の質の向上すべき事柄が明らかになる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校は、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの支援を受け、「天領小学校・みなと小学校・天の原小学校の3校が連携した海洋教育」を通じたESDを展開している。その中で、各校の各学年の活動状況や3校が協同で実践した活動など、海洋教育を通じたESDのあり方をリーフレットにし、市内の小中学校全校の職員に示した。また、新聞等のメディアに本校活動を積極的に取材依頼し、保護者・地域の方々のESDに関する理解を図っている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

「オリンピック・パラリンピックムーブメント推進事業」との連携を図り、県のスポーツ推進室の支援がある。海洋教育を通じたESDを展開するにあたっては、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの支援を受けている。また、地域の「ネイチャーガイド・オオムタ、自然案内人」「がたいね踊り保存会」等から様々なレクチャーを受けている。さらに、国土交通省九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所からは、港湾の見学・指導を受けている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

学びの場の広がりとして、学習活動の成果をユネスコスクール全国大会や市内のユネスコ子どもサミット等を通して実践校と交流している。海洋教育を通じたESDにおいては、九州の海洋教育パイオニアスクールと連携し、「海洋教育子どもフォーラム」を開催した。実際に顔を合わせて、交流することにより、今後のネットワークの広がり、深まりが期待できる。子どもたちや教師は、新たなESD展開の視点を得ることができ、活動・学びが意欲的になる。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

課題を解決したり、学びの成果を発信したりする場をもとめて、地域の方々にふれ合うことにより、学校と地域がより理解を深めることができる。また、様々な発表の場を経験することにより、子どもたちの表現への意欲や表現の仕方のスキルが向上する。そういった子どもたちの活躍の様子を学校やメディアを通して保護者へ伝えることにより、本校の教育のあり方への理解や自校を誇りに思う心情が醸成される。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も体育科を中心に、人々・社会とかかわる課題解決的な活動を重視し、「オリンピック・パラリンピック」を通じたESDを展開する。

さらに、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの支援を受け、「天領小学校・みなと小学校・天の原小学校の3校が連携した海洋教育」を通じたESDを展開する。

具体的には、①オリンピックやパラリンピアンとの交流学习、②海洋教育「海に親しむ」に関わる学習、③海洋教育「海を守る」に関わる学習、④海洋教育「海の未来を考える」に関わる学習を行う。

特に海洋教育を通じたESD展開では、他県の研究協力校とのTV会議やポスターセッションによる交流学习を進め、活動・学習への意欲を高めたい。また、海洋教育を通じたESD展開のあり方を市内外の学校に発信し、海洋教育推進を図る。